

■知的支援学校における実践事例

インターナショナルスクールの子どもたちとともに マルチメディアDAISY図書を楽しむ

京都府立南山城支援学校
藤澤 和子・矢野 真理恵

はじめに

昨年度は、子どもたちの読書の楽しみを広げるために使用した事例、音読指導に使用する可能性について報告しました。しかし、全校的に十分に普及したという状況ではありませんでした。

2年目の今年は、昨年度の課題を継続して取り組むことに加えて、図書部が毎月1回実施しているお話の会で、インターナショナルスクールの子どもたちと読書を楽しむために活用した取り組みを報告します。

インターナショナルスクールの子どもたちと物語を楽しむ

(1) 目的

本校では、地域のボランティア団体の方に人形劇やペープサートを使った物語の読み聞かせをしていただき、子どもたちがお話の楽しさや

おもしろさを経験できる取り組みを行ってきました。

今年初めて、本校の近くにあるインターナショナルスクールの子どもたちや先生に、日本のお話を日本語で読んでいただくことになりました。

彼らの中には、読み書きが苦手な日本語の習得に時間がかかる子どももいました。そこで、日本語でお話を読む練習に、マルチメディアDAISY図書を使いました。

マルチメディアDAISY図書は、明瞭な発音で音声が出力されること、読んでいる箇所がハイライトで示されることから、インターナショナルスクールの子どもたちの練習には適していると考えました。

また、本校の子どもたちにとっても、読んでいる箇所がわかりやすく、絵を大きく映し出せるので、お話に集中できるのではないかと考えました。

(2) 方法

インターナショナルスクールからは、小学6年生から高校生までの30名が参加、本校からは、小学・中学・高等部の知的障害、重度重複、自閉症の子どもたち60名が参加しました。

図書は、読み手も聞き手も双方がわかりやすく楽しめる『おおきなかぶ』を選び、練習していただきました。

当日は『おおきなかぶ』のマルチメディアDAISY図書を大型テレビに映し、音量をOFFにして、インターナショナルスクールの子どもたちが読み手になりました。「うんとこしょ、どっこいしょ」のかけ声だけが英語で発音され、それを本校の子どもたちがまねしながら、物語が展開しました。

(3) 子どもたちの反応

本校のほとんどの子どもたちが、大型テレビに映し出されたマルチメディアDAISY図書をしっかりと見ながら、音読を聞いていました。文字を読むことができる子どもたちは、一緒に読んでいました。英語の「うんとこしょ、どっこいしょ」のかけ声が、かぶを引き抜こうとする場面であることは、画面を見ることで共有できました。

また、かけ声が何度も繰り返されたので、みんなで声をそろえて言う

ことができ、とても盛り上がりました。



インターナショナルスクールとの交流

(4) 使用した感想・意見

本校の子どもたちだけでなく、インターナショナルスクールの読み書きが苦手な子どもたちにとっても日本語の音読の学習になり、有効だと思いました。参加したインターナショナルスクールの子どもたちは、自分たちの発表を楽しんでもらえたという達成感を味わうことができ、「また読み聞かせをしたい」と思っているそうです。

初めての交流だったので、お互いに緊張や戸惑いがありましたが、マルチメディアDAISY図書を使用して進めることで物語が見やすく、また文字が読みやすくなり、お話の楽しさ・おもしろさを十分に共有することができました。

音読指導への使用

拾い読み段階の子どもが、文節を

意識して音読する学習に役立ったことを、前の報告書（「わいわい文庫活用術①」30ページ参照）で述べました。

今年度も、音読指導に使用して学習効果があったA君、また、マルチメディアDAISY図書で音読の楽しみを、初めて経験した重度の構音障害のBさんを報告します。

(1) A君（知的障害、小学2年生、ひらがなは読めるが、文章は拾い読みになる）

- 個別指導で、週に1回、6月から11月現在まで使用しています。
- 教材『あいうえおにぎり』
- 最初の1か月は、読み上げの音声を聞きながら、指導者といっしょに復唱をしました。A君が一人で復唱するように、指導者は徐々に読まないようにしていきました。A君は、ハイライトの文字を見ながら、読み上げ音声といっしょに読むようになっていきました。音声よりも速く読むようになったので、音声を消すと、一人でハイライトに従って読むことができました。食べ物が大好きなA君は、「おいしい」「あちち」などと言って、お話を楽しんでいました。

(2) Bさん（重度構音障害と知的障害、高等部3年生、清音のひらがなの1

文字ずつの理解はできるが、構音障害のため文字を正確に発音する（読む）ことはむずかしい。音読の経験がありませんでした。）

- 個別指導で、週に1回、5月から11月現在まで使用する。
- 教材『ぞうくんのおおかぜさんぽ』
- 読み上げ音声を聞いて、指導者といっしょに復唱しました。正確に発音することはできませんが、イントネーションなどをまねて読むことが楽しかった様子で、毎回「ぞうさん」と言って要求しました。

初めは、自信がなく小さい声でしたが、回数を重ねるにつれて、覚えて言えるようになり、声も大きく、聞き取りやすい部分が増えてきました。自分で読んでいるという満足感を感じているようです。マルチメディアDAISY図書を使った音読が好きになり、最近『あいうえおにぎり』も要求して読んでいます。

文字が読めない子どもたちに読書の楽しみ

iPadが6台購入され、伊藤忠記念財団からお借りした1台を足して、7台でマルチメディアDAISY図書を見ることができるようになりました。マルチメディアDAISY図書を見たクラスや個人について報告します。

(1) 個人で視聴する。

- ①重度重複（小学部1名、中学部1名）
 - 使用したマルチメディアDAISY図書『ノントンにんにんにここ』
 - 1歳前後の発達で、自分で身体を動かすことができない子どもたちですが、好きなノントンのDAISYは、画面をじっと見て視聴しました。



ノントンを楽しむ重度重複の子ども

②知的障害（中学部）

- 使用したマルチメディアDAISY図書『地獄のそうべえ』、『11ぴきのねこ』、『11ぴきのねこ ふくろのなか』、『11ぴきのねことあほうどり』
- 発語はなく、文字の理解も清音半分程度ですが、語彙の理解力が7歳程度あるので、物語の展開の面白さがよくわかり、愉快で楽しいところになると、声を出して笑いました。将来的にも個人で読書を楽しむためのツールとして、たいへん有効だと思います。

(2) クラスで視聴する。

- ①知的障害（中学部5名）
 - 使用したマルチメディアDAISY図書『やさいだいすき』、『ケーキ・ケーキ・ケーキ』、『あいうえおにぎり』
 - 大型テレビで、国語の時間に視聴しました。『やさいだいすき』では、視聴した後で、でてきた野菜を、一人ずつ発表しました。『ケーキ・ケーキ・ケーキ』は、ケーキの種類をみんなで当てっこして、たいへん盛り上がりました。『あいうえおにぎり』は、文字が読める子どもは文字を読み、読めない子どもは、聞いた音声を復唱して、全員で音読しました。

(3) まとめ

マルチメディアDAISY図書を使うと、子どもたちが集中して視聴することを、先生方がわかってこられたようです。「読み聞かせも良いけれど、マルチメディアDAISY図書でも楽しめる」そんなことを感じられる先生方が増えてきたように思います。授業の学習教材としても使用できました。

今後の活用方法と課題

今年度は、iPadの説明を兼ねて、マルチメディアDAISY図書の説明会を先生を対象に2回、保護者向けに

1回持ちました。iPadの普及とともに、マルチメディアDAISY図書が知られるようになってきました。

報告しましたように、DAISYの活用は、いろいろと考えられます。知的障害や重度重複、自閉症の子どもたちにとって、iPadや大型テレビやパソコンを通してみるができるため興味をもって集中できること、視聴覚を使うので、理解しやすいこ

とが、活用を広げてきた理由だと思っています。

また、障害のある人と、読み書きが苦手な日本語の習得に時間がかかる外国の人の両方に、マルチメディアDAISY図書の機能が有効であり、両者の交流にも適していることがわかりました。今後も、機能を活かした活用の可能性を探っていきたいと考えます。

